

大辨大江朝臣、春宮權大夫藤原朝臣等候御前、公卿座本敷長押上、當時有議、北庇敷綠端疊爲座、如本侍臣執機立僧綱前、以威儀御榮分給之、召廳飯供之、公卿座給衝重、御齋畢、僧綱公卿退出、別納所羞殿上饗、日沒之後、蒙雨滂沱、抑漏千僧供者三百僧、有令愁申、又有乞食者數百人、其聲及御所、忽召別納所別當泰清朝臣、令運米五十斛、三十石給不預供養之僧、廿石施行乞者、今夕寺司賜別祿、別當僧正白大褂一重、以判官代遣之、自餘召給之、權別當平崇、小別當仁壽、各白大褂一領、三綱四人、造寺勾當一人、各黃染衾一條、今夜於戒壇北堂、可被行說淨事、而僧正令奏曰、大小十師屈給、日沒又依降雨可難參見、先例不必行之、有議停之、廿三日辛卯、○中戌時還御圓融寺、

〔扶桑略記二十七〕寬和三年元年○永延十月廿六日、圓融法皇御幸南京巡拜諸寺、於東大寺受戒、

〔榮花物語三様々の挽〕花山院はこの冬、山にて御受戒せさせ給て、その後くまのにまゐらせ給ひて、まだかへらせたまはざんなり、いかでかゝる御ありきを乞なはせ給けんと、あさましうわはれにかたじけなかりける御すべどみえたり、

〔日本紀略八花山〕寛和二年十月日、法皇山○花於天台山戒壇院受廻心戒、

〔百練抄四山〕寛和二年九月十六日、花山法皇令受天台戒給、義懷惟成兩法師同受之、

〔元亨釋書二十六資治〕永長元年八月、上皇河○白出家、十月、受沙彌戒于隆命、

〔本朝世紀〕康治元年五月五日丁酉、是日法皇羽○鳥并入道大相國○實於東大寺登壇受戒、去二日法皇從白河殿御幸宇治小松殿、入道相國本自坐此所有御儲事、四日御進發、扈從公卿内大臣、左衛門督藤公教卿、權中納言同公能卿、左近中將藤忠雅卿、皆布衣也院別當民部卿藤顯賴卿、判官代兵部權大輔平時信、主典代主計權助、大江以平等、昨日下向東大寺、爲奉仕御所御裝束也、以西室僧房爲御所、圓融院御時、以食堂爲御所、今度食堂破損、仍用西室也西刻著御東大寺西中門前、號礎也、脫御車、即下御門、中堂巽角有一堆、號禮拜墓掃部寮其上鋪小筵供半帖、昔本願聖武天皇、於此墓上遙拜大佛、相次圓融法皇如此、法皇